

平成30年度 第2回 新潟市男女共同参画推進センター運営委員会 議事概要

日 時： 平成30年11月12日（月） 午後1時30分～3時30分

場 所： 新潟市男女共同参画推進センター「アルザにいがた」 307研修室

出席者： 新潟市男女共同参画推進センター運営委員

齋木委員、西條委員、齋藤委員、指田委員、佐藤委員、永田委員、福田委員
事務局（男女共同参画課）

上所課長、新井課長補佐、小林主査、尾崎主査、長谷川

1 開会

2 男女共同参画課長あいさつ

3 報告

(1) 平成30年度事業報告（4月～10月開催事業）

（事務局） 各担当より主催事業の報告

（西條委員） 年度当初に今年のテーマを決めてから企画を立てるのか。

（新井補佐） 企画委員と企画する4講座は、対象は初めから決まっており、内容は企画委員会の中で決める。その他のアルザの職員が企画する講座は、年度当初に大まかに、行動計画の中のどれを取り上げるか考えている。

（西條委員） 今年度の中心テーマは何か。

（新井補佐） 中心ということではないが、今年成立した「政治分野における男女共同参画の推進に関する法律」に関する講座や、最近開催していなかったメディア・リテラシーに関する講座、起業のための講座をやるといったことを考えている。その他、パパ向けの講座や再就職支援講座などは毎年やりたいと考えている。

（永田委員） アンケート結果では、チラシで講座を知ったという割合が多いが、私がイベントの集客をする場合は、チラシで知ったという割合は少ない。チラシのウェイトが高い理由は何か。

（新井補佐） チラシは基本的には公民館や図書館、各区役所に配布するが、子育て世代に向けたものであれば保育園に配布するなど、対象に合わせた施設に配布している。SNSを利用した方がいいという話もいただき、今年からTwitterを始めたりしているが、なかなかそちらからの集客はなく、チラシを目にしていच्छる方が多い。

（永田委員） 基本的には同じ場所に置いてあるということは、対象の方が偏るという懸念はないのか。

（新井補佐） 毎年同じ方が参加されるということもあると思う。新しい方からも参加していただくために、今後も広報については研究していかなければならないと考えている。

（上所課長） 相談機関が対象であれば、市の機関だけではなくNPOや民生委員に配布したり、学校の教員に聴いてもらいときは、養護教諭の集まりを通じて配布したりとピンポイントで対象となる方に届けられるようにチラシを配布している。

（佐藤委員） 満足度は高いものが多いが、学習目標との関係はどうだったのかのという視点で振り返りをしてもらいたい。例えば、女性の生き方講座1の「良妻賢母か

らの解放」は、男は外、女は家といった家父長的な価値観から脱却して、男女共同参画社会の実現に向け意識啓発をするといった良いタイトルだが、このことに関する感想があまり見受けられなかったのが残念だ。

また、集客が課題であれば、出前講座のようなアウトリーチもあると思う。

自己尊重トレーニングは、参加者の次のステップを考えるとアルザが活動拠点としていい方向に行くのではないか。

(新井補佐) 学習目標に対してどうだったか振り返りをするのは大切だと思うので、次回からは資料にも記載していきたい。

また、こちらから出前をしていくことも大切だと思うので今後検討していきたい。

「自己尊重トレーニング講座」の受講者は、今開催している「自己表現トレーニング講座」も受講してもらい、そこから、アルザを拠点として活動していけるようにつなげることができればいいと思う。

(指田委員) 定員割れの講座がいくつかありもったいない。「ママのための再就職セミナー」は、申し込みが19人で当日の参加は14人だったが、欠席の理由は何か。

(尾崎主査) 参加される方が小さいお子さんをお持ちの方が多かったので、お子さんの具合が悪いという方がほとんどだった。

(指田委員) 全体的にタイトルが固い。「良妻賢母」「差別や偏見からの解放」など、ジェンダーを学んでいる人は好きだろうが、アルザに初めて来るような方にも聴いてほしいとすると難しい。

アルザを知ってもらうためにも、初心者向け、中堅の方向けなど、メリハリをつけ講座組みをしてみると差別化ができおもしろいと思う。

(佐藤委員) ターゲットを絞った講座を開いてもらいたい。

また、「女性の生き方講座2」の課題で、金曜日の夜に3週連続参加は難しかったかもしれないとあるが、夜に参加したい人もいるので、夜にも開催してほしい。

(新井補佐) タイトルは、企画委員が企画する講座は、企画委員の思いが詰まっている。初めて参加される人が対象あれば軽くなど、対象の人に合わせたタイトル作りに努めていきたい。

また、夜の開催は、金曜日という曜日がよくなかったのかもしれないので、来年度の企画委員会議でいつがいいのか考えていきたい。

(西條委員) 「女性の生き方講座1」の参加者は30代の専業主婦の方が多いが、今の若いママ達は「良妻賢母」しなくてはという意識がある方が意外と多いということなのか。

女性向けの講座で「良妻賢母」や「ケア」というタイトルは、ケアは女のもので、良妻賢母でなくてはという古い観念を植え付けるのではないか。なぜケアの講座は女性向けで男女一緒になかったのか。

(新井補佐) 企画委員の子育て中の方から、全く夫に家事、育児を期待できず、苦しい思いをしている妻も多いという話がありこの企画をした。もちろん企画委員は、良妻賢母なんてやめようよという意味を込めてこのタイトルにした。

ケアについては、「女性の生き方講座」の企画ということで、最初から女性を対象にしていたが、企画委員会議の途中で男性に聴いてもらってもいいねという話はあった。

企画委員が企画する講座は、女性対象のものが2つあるが、来年度は、どなたでも受講できる講座を増やしてもいいのではないかと考えている。

(齋木委員) 企画委員をしているが、いい企画をしても人が集まらないのは残念だと思っている。お困り感がある人に伝える講座は夜でも集まるのかもしれないし、出張講座や、広報、マッチングのようなものを整えたほうがよいのではないかな。

(新井補佐) こちらから伝えたいものも、もちろんあるのだが、皆さんが知りたいことは時代により変わると思うので、そういうところを敏感に感じながら企画していきたい。

(指田委員) マッチングであれば、講座ごとに参加した人のメーリングリストを作り、若い女性、パパ、定年期の男性、働いている女性、自己尊重の受講者などに分け講座の情報を流すと結構反応がある。講座が始まる時にこういうメーリングリストがありますと言うと登録してくれる。

(佐藤委員) 講座の案内はメールで送っているのか。

(新井補佐) 登録していただいた方にはメールで送っている。

(佐藤委員) 障がい関係の事業所へは、障がい福祉課がいろんな企画や情報についてメールで連絡をくれる。女性関連の団体へ一斉メールをするといいかもしれない。

(新井補佐) アルザのメーリングリストは、メールアドレスしかお聞きしていないので、年代や性別では分けていない。今後参加者からいただけるのであれば、リストを作成したい。

(齋藤委員) 「相談に携わる方のための講座」は非常に人気があるが、相談に携わっている方とは、市が委託している相談員か。

(新井補佐) 相談に関係している方であればどなたでもいい。

(齋藤委員) 一般の方はいないのか。

(新井補佐) 相談に携わっている方がほとんどだが、中には一般の方もいる。

(福田委員) 「良妻賢母」のような単語を公の機関で発信してしまうことは、なるべく避けようということアルザはやってきて、私もこの言葉に引っかかったが、今回は「良妻賢母」という言葉が一番適当だと企画委員が思い使ったのだろう。

「女性の生き方講座1」の3回目の「親業」という言葉は、30年前に子育てをしていた時に保育園で出てきた。30年前の子育ての価値観を今頃企画で出すのはどうかと引っかかっているの、企画委員の反省会で聞いてみたい。

「男性の生き方講座(子育て期)」の講師の末松さんは、昨年度の企画委員の講座で呼びたかった方で、どうだったか。

(小林主査) 実際に高校生に家庭科を教えていることや、家族の話など自分の体験を交え、男性も家族として一緒に家庭をつくっていかねばいけないし、妻と夫は全く違う環境で育ってきているので、考え方がいろいろ違うが、それを認め合って新しい関係を作っていこうという話だった。

(齋木委員) 「女性の生き方講座1」の企画委員会では、「親業」という言葉は聞いたことがなかったので新鮮に感じた。

(佐藤委員) プログラムのねらいには、「母親業からの解放」とあるので、あらためて親業をなささいということではないだろう。

良妻賢母も確かに古いかもしれないが、隠れた良妻賢母が増えていると思う。景気が悪く男性は働きすぎで、給料も男性が100だとすると女性は50なので、夫にちゃんと働いてもらうには私が全部家事、育児をしないとだめだと、夫の

家事、育児への参加を期待しない妻が増えていると思う。

(西條委員) チラシの「SNSにふりまわされずに自分の軸を整え、オリジナルな親子関係を結び親業を楽しむヒントを見つけましょう」に込められた思いが知りたい。SNSに振り回されているということか。

(齋木委員) 30代の企画委員から、今の母親達はSNSに振り回されて、子育ては何が正解かがわからずに神経をすり減らしているという話があった。それが企画の出発点だったのでチラシに入れた。

(2) 男女共同参画市民団体協働事業の実施状況について

(事務局) 各担当より実施状況の報告

(上所課長) 昨年度までこの事業は3回以上の実施が条件だったが、今年度から応募しやすいよう、1回の実施でも応募できるようハードルを下げた。「女のスペース・にいがた」も今年は1回の実施だったが、やってみてどうだったか。

(佐藤委員) 私がかかわって今年は3回目だが、1回目は3回連続講座で、毎回違う内容だったので労力もお金もかかり大変だった。2回目は、3回同じ内容で3会場回ったので楽だった。今年は1回ということで労力的には楽だった。委託金額は3万8,000円と低いがそれなりの労力の対価かなと思った。内容により3回連続講座にしたいときは1回では物足りないので、どちらでもいいという選択肢があることはいいと思う。

(齋藤委員) 男性の定年期の生き方講座はいつ頃開催するのか。

(小林主査) 平成31年1月22日、29日の2回の予定で、12月2日の市報に掲載する。

(齋藤委員) 参加者の皆さんは仲間作りがしたいので、講座終了後に懇親会を企画してほしい。

(小林主査) 今回は、企画委員が2回目の終了後に懇親会を開催する予定だ。

4 その他

(1) アルザフォーラム2018について

(事務局) 開催状況説明

(西條委員) 基調講演の犬山さん、劔さんのご夫婦のトークが非常におもしろかった。30代くらいの夫婦で来ている参加者が何組もいらっしや、夫婦でアルザフォーラムに参加するというのが素晴らしいと思った。

(新井補佐) 今年の基調講演は若い方に多く来てもらいたかったので大変よかった。

(2) その他

(西條委員) 男女共同参画市民団体協働事業の残り2つの事業はいつ開催するのか。

(新井補佐) Father “H” Familyの「パートナーシップ講座」は、平成31年1月13日、20日、27日の日曜日です。わいわい夢工房の「防災カフェ」は2月に2回と3月11日です。

(佐藤委員) 図書室の開館時間を昨年度変更したが、それで何か困っているなどの声はないか。また、相談室の相談時間も今年度から変わったが、何か影響はあったか。それから、保育室は曜日を決め個人解放をしているが、その状況はどうか。

(新井補佐) 図書室については特はない。

相談については、電話相談の日数が減り、相談日は電話を受けている時間が

増えていると相談員から聞いている。また、カウンセリングは、次の週すぐに予約が入れられたのが、2週、3週先になっている。

保育室は、1階の児童センターの休館日、主に月曜日を開放日としているが、利用者は1組、2組くらいで、いないときもある。利用が少ない理由としては、子どもの出生数が毎年減っていることや、自動車で移動される方は、児童センターが休館であれば、子育て支援センターなどに行くことなどが考えられる。

(事務局) 次回の運営委員会は3月頃の開催を予定しているが、あらためて各委員の日程を調整のうえ案内する。